

世界 LNG 動向#115 2025 年 7 月

橋本裕*

はじめに

2025 年上半期、中国を中心としてアジア地域の LNG 輸入が減少したが、欧州連合 (EU)・英国合計の LNG 輸入が 20%程度増加した。この結果、スエズ運河を挟んで東西の LNG 輸入量比は、2024 年通年の 70:30 から 2025 年上半期は 64:36 と、欧州を含む大西洋市場の比重が増した。日本は 2025 年上半期、3241 万トンの LNG を輸入し、2024 年の同時期より 0.81%減少した。中国の LNG 輸入量は 20.6%減の 3011 万トンであった。従って 2025 年上半期は、日本が世界最大の LNG 輸入国だった。中国のパイプラインガス輸入は 10.5%増の 2944 万トンであり、同国の合計の天然ガス輸入量としては、前年同期比 7.8%減の 5955 万トンだった。LNG 輸出側では、米国の輸出量が史上初めて半年間で 5000 万トンを超えた。

パナマ運河経由の LNG カーゴ輸送は引き続き低迷している。米国本土 48 州からの LNG 輸出は引き続き堅調に増加しているが、アジア太平洋市場向けの LNG 輸出に関わる海上輸送については、パナマ運河を通しての航行が低迷する状況が続いている。2025 年上半期の、大西洋側から太平洋側のカーゴ満載での LNG 輸送船舶の航行数は、13 カーゴとなり、前年実績 (14 カーゴ) を 1 隻下回った。日本向け LNG 輸送については、2025 年上半期の米国産 LNG 輸入 28 カーゴの内、パナマ運河経由で輸送されたのは 6 カーゴに留まり、残り 22 カーゴがアフリカ南端喜望峯廻りだった。2023 年まで米国産 LNG の 5 カーゴ中 3 -4 カーゴがパナマ運河を通して輸送されたものが、現在は 5 カーゴ中 1 カーゴという状況が続いている。

米国でさらに 1 件の LNG 生産プロジェクト FID が実現。7 月末、Venture Global CP2 LNG プロジェクトの FID が発表された。これにより、2025 年世界で発表された LNG 生産部門の FID 容量は、3600 万トンを超え、この内 3300 万トン分が米国でのプロジェクトからのものとなる。今回の CP2 の FID は、4 月末の米国 Louisiana LNG プロジェクト、5 月初旬アルゼンチンの Southern Energy LNG プロジェクト、6 月末の米国 Corpus Christi ミッドスケールトレイン 8 & 9 プロジェクトに続くものである。

契約期間 20 年間の LNG 販売取引が、LNG 生産プロジェクト開発を支えている。前述の Venture Global 社の CP2 プロジェクトについては、今回の FID に至る前に、7 月に新たに 3 件、マレーシア PETRONAS LNG 社向け、ドイツ Securing Energy for Europe 社 (SEFE) 向け、イタリア Eni 社向けに、いずれも 20 年間の LNG 販売取引を発表した。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

【アジア太平洋】

日本は 2025 年上半期、3241 万トンの LNG を輸入し、2024 年の同時期より 0.81%減少した。平均輸入価格は 100 万 Btu 当たり 11.78 米ドルと、2024 年通年の 12.27 米ドルより低かった。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 7 月 9 日、韓国の Hyundai Engineering (현대엔지니어링 (ヒョンデエンジニアリング))、Hyundai Glovis (현대글로벌비스 (ヒョンデグロービス)) との間で、LNG プロジェクト開発、エンジニアリング業務、海上輸送ロジスティックスで協力するための戦略的枠組を確立する非拘束の MOU (覚書) を締結したことを発表した。

Excelerate Energy 社は、2025 年 7 月 8 日、新造 FSRU 船殻 3407 の韓国の現代重工造船所からの予定通りの進水を発表した。2026 年引き渡し見込み。3407 は日量 1 bcf 引き渡しが可能で、170,000 m³ 貯蔵容量、複数燃料種ディーゼル・電気エンジン、先進的排出削減システムを備える。

韓国 MOTIE (通商産業資源部) 電力産業政策課は、2025 年 7 月 8 日、電力需要が同 7 日に 93.4 GW と 7 月として記録となる中、「極端な酷暑」を乗り切り需給の安定を維持している、と述べた。

2025 年上半期、中国の LNG 輸入量は 20.6%減の 3011 万トンであった。中国のパイプラインガス輸入は 10.5%増の 2944 万トンであり、合計の天然ガス輸入としては前年同期比 7.8%減の 5955 万トンだった。中国の天然ガス生産量は、2025 年 1-6 月、前年同期比 5.8%増の 130.8 bcm (1308 億 m³) に達した。天然ガス消費量は、前年同期比 0.9%減の 211.97 bcm (2119.7 億 m³) となった。

GTT 社は、2025 年 7 月 8 日、次世代 LNG 輸送船舶設計のため、海運産業の主要企業 7 社と共同開発プロジェクト合意書を締結したことを発表した。LNG 輸送のカーゴ容量は 200,000 m³、カーゴタンク 3 基を備え、速度は低い運航として設計される。この運航方法により、輸送されるカーゴ単位当たりの燃料消費・CO₂ 排出を大幅に削減し、全体としてのエネルギー効率を改善すること。傭船者 (SINOCEM OIL SHIPPING (Singapore) PTE. LTD)、船主 (COSCO SHIPPING LNG Investment (Shanghai) (上海中远海运液化天然气投资有限公司)、Shandong Marine Energy (Singapore)、造船者 (COSCO SHIPPING Heavy Industry (中远海运重工有限公司))、船舶設計者 (Marine Design & Research Institute of China (MARIC = 中国船舶及海洋工程设计研究院)) がそれぞれの得意分野で貢献することとなる。

中国の PipeChina (国家管网) は、2025 年 6 月 26 日、West-East Gas Transmission Line 4 (西气东输四线) Gansu - Ningxia (甘宁) 区間が稼働開始したことを発表した。West-East Gas Transmission Line 4 (西气东输四线) (Turpan - Zhongwei (吐鲁番 - 中卫)) は全線接続完了、稼働となった。年間輸送容量は 15 bcm (150 億 m³) に達し、石炭 2700 万トン以上を代替、炭素排出 5000 万トンを削減するとしている。

Boskalis 社、Allseas 社は、2025 年 7 月 29 日、両社 50/50 連合が CPC Corporation Taiwan (台湾中油股份有限公司) より、永安から通霄への第 2 沖合パイプライン (YT2) 契約を受注したことを発表した。南西部永安 LNG 基地から北西部通霄ステーションへの 232 km 区間を既存 YT1 パイプラインと並走する新規 YT2 36 インチ径沖合天然ガスパイプラインの設計、建設、設置、試運転準備を実施する。

Karpowership は、2025 年 7 月 21 日、ベトナム商工省 (MOIT)、電力公社 EVN 等の関係諸機関と、自社浮体式 LNG・発電ソリューションを説明する話し合いを行った、と述べた。

POSCO Holdings 社は、2025 年 7 月 15 日、POSCO E&C が 6 月 30 日にタイ Gulf MTP (Map Ta Phut) LNG 基地プロジェクト建設契約を受注したことを発表した。同プロジェクトは、250,000 m³ LNG 貯蔵タンク 2 基、積卸設備、気化設備建設を含む、年間処理容量は 800 万トンとなる。Gulf MTP LNG 基地はタイ初の官民パートナーシップでの LNG 基地プロジェクトとなる。

タイ PTTEP 社は、2025 年 7 月 25 日、マレーシア・タイ共同操業水域 (MTJDA) 第 A-18 鉱区の 50%参加権買い取りを発表した。PTTEP Joint Development SG 社は、タイ南部地域の発電用天然ガス供給源となっている同鉱区の 50%参加権を、子会社を通じて所有している Hess International Oil 社の発行済み株式 100%買い取りの SPA (売買契約) を締結した。両売主 Hess (Bahamas) 社、Hess Asia Holdings 社は Chevron・Hess 合併後、Chevron 完全子会社となっている。当該鉱区は日量 0.6 bcf (6 億立方フィート) の天然ガスを生産しており、これは両国向け等分で供給されている。

マレーシア PETRONAS (Petroliam Nasional Berhad) 社は、2025 年 7 月 17 日、子会社 PETRONAS LNG (PLSB) 社が SMJ Energy 社との間で、同社に PFLNG 3 社への 25%出資参加諸条件を公式化する HoA (基本合意) を締結したことを発表した。PFLNG 3 社は、サバ州 Sipitang Oil & Gas Industrial Park (SOGIP) に設置されることとなるニアショア FLNG (浮体 LNG 生産設備) 開発企業である。

DNV は、2025 年 7 月 23 日、株式会社商船三井 (MOL)、MISC 社、PETRONAS CCS Ventures 社 (PCCSV)、上海船舶研究设计院 (SDARI) 向けに、その 62,000 m³ LCO₂ (液状二酸化炭素) 輸送船舶設計に、設計内容承認 (GASA) 証書を認定したことを発表した。2023 年 DNV が認定した原則承認 (AiP) に続くものである。この設計の特筆すべき点として、カーゴコンテインメントシステムに安全・効率向上のため先進素材を使っていること、圧力・温度管理のため再液化システムを含んでいることがある。その他の要素としては、省エネ型の推進システム、最適化船殻設計、燃費向上・環境優位性のための LNG 燃料利用がある。

Eni 社 2025 年 Q2 業績に関する 7 月 25 日の説明会によると、インドネシア・マレーシアでの Petronas との上流部門共同において、2026 年 5 件の FIDs (最終投資決定)、その後数年間でさらに 4 件を目標としているとのこと。総生産量は取引締結時点の日量 300,000 バ

レル強相当から、4-5 年後に 500,000 バレル強相当を期待しているとのこと。

インド GAIL 社は、2025 年 7 月 14 日、Vitol Asia 社との間で年間 100 万トン、2026 年から 10 年間の LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。

インド Petronet LNG 社 (PLL) は、2025 年 7 月 10 日、Deepak Fertilisers and Petrochemicals 社 (DFPCL) 子会社 Deepak Mining Solutions 社 (DMSL) 子会社 Performance Chemiserve 社 (PCL) との間で、5.5 年間 (2026 年 5 - 7 月開始、2031 年 12 月 31 日終了) ・LNG は DFPCL グループが輸入する、気化契約を締結したことを発表した。PLL は自社 Dahej 基地で、2026 暦年の初期立ち上がり期間後、年間 25.6 TBTUs (50 万トン) の LNG を受け入れ、貯蔵、気化する。気化されたガスはタロジャにおける DFPCL グループの製造業部門を中心に利用されることとなる。これよりも先に、DFPCL は Equinor と LNG SPA (売買契約) を締結した。

インド Petronet LNG 社は、2025 年 7 月 25 日、ゴパルプルにおける従来の年間 400 万トン・FSRU (浮体貯蔵・気化設備) に基づく LNG 基地計画から、年間 500 万トン陸上型 LNG 基地設置への変更に伴う追加投資に関して、自社取締役会が原則承認で合意したことを発表した。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 7 月 29 日、ExxonMobil Australia 社との合意に基づき Bass Strait 資産のオペレーターシップを引き受けることに合意したことを発表した。沖合 Bass Strait 生産資産、Longford ガス設備、Long Island Point ガス液処理設備、随伴パイプラインインフラストラクチャーのオペレーターシップを引き受ける。これら資産における両社の出資分、現在のディコミッションング計画・諸条件に変更はない。Woodside は開発可能性ある 4 井を特定済みである、と述べた。取引完了は 2026 年を目標としている。Bass Strait 資産には Gippsland Basin 合併事業 (GBJV)、Kipper Unit 合併事業 (KUJV) が含まれている。Woodside ・ExxonMobil Australia それぞれの子会社とも、各々 GBJV の 50%、KUJV の 32.5%参加権を有している。Bass Strait 資産の天然ガス生産は豪州東部ガス需要の 40%に供給している。

豪 Santos 社は、2025 年 7 月 17 日、Moomba CCS フェーズ 1 プロジェクトについて引き続き期待通りの成果を挙げており 2025 年第 2 四半期は CO₂ 100 万トンの貯蔵を達成した、と述べた。

豪州のエンジニアリング企業 Monadelphous 社は、2025 年 7 月 4 日、自社の組み立て業務子会社 Inteforge が、クィーンズランド州 Australia Pacific LNG への井戸元機器の供給継続のため Origin Energy 社と包括物資供給契約の 2 年間延長を確保したことを発表した。Inteforge は 2015 年以来、パッケージ化してモジュラー化した機器を Origin Energy 向けに供給している。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 7 月 23 日、同年第 2 四半期業績報告の中で、North West Shelf (NWS) プロジェクトは第 2 系列除却完了、KGP (Karratha Gas Plant) 容量を、年間 1690 万トンから 1430 万トンに減少した、と述べた。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 7 月 23 日、同年第 2 四半期業績報告の中で、Scarborough ・ Pluto Train 2 プロジェクトは、同四半期末時点で (Pluto Train 1 改造を除き) 86%完了した、と述べた。同発表によれば、同プロジェクトは引き続き 2026 年第 2 四半期最初の LNG カーゴに向けて進展している。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 7 月 23 日、同年第 2 四半期業績報告の中で、自社生産 LNG の 23.1%をガスハブリンクの価格で供給し、原油連動価格方式に対して 14%のプレミアムを実現した、と述べた。

株式会社 INPEX は、2025 年 7 月 3 日、INPEX Browse E&P Pty Ltd (IBEP) を通じて、2022 年より豪州北部準州ダーウィンの沖合約 250 km に位置する Bonaparte 堆積盆地に広がる GHG アセスメント鉱区 G-7-AP 鉱区にて、パートナーである TotalEnergies CCS Australia Pty Ltd および Woodside Energy Ltd を含む Bonaparte CCS 共同事業体として Bonaparte CCS プロジェクトの評価作業を行ってきたが、本事業が豪州連邦政府より重要プロジェクト認定 (Major Project Status) を受領したことを発表した。本事業は、同国にて本認定を受ける初の海上 CCS プロジェクトとなる。

豪エンジニアリング企業 Monadelphous 社は、2025 年 7 月 4 日、エネルギー部門での新規契約受注を発表した。同社は Technip Energies 社より、Shell 社ウェスタンオーストラリア州沖 Crux プラットフォームの接続・コミッショニング関連業務提供の契約を確保した。同プラットフォームはブルームの 620 km 北東、Shell 社の Prelude FLNG (浮体式液化天然ガス処理設備) から 160 km の位置にある。Shell Crux 設備は、Prelude への長期的なバックフィルの一環となる。作業は 2026 年末に完了予定としている。

豪 Santos 社は、2025 年 7 月 17 日、Bayu-Undan ガス田生産は 2025 年 5 月に停止、東ティモール・豪州政府との間で Bayu-Undan CCS プロジェクト計画推進、Bayu-Undan インフラストラクチャーの第三者ガス処理機械検討のため、話し合いが続いている、と述べた。

豪 Santos 社は、2025 年 7 月 17 日、Barossa LNG プロジェクトについて 97%以上完成している、と述べた。BW Opal FPSO (浮体生産・貯蔵・積み出し) 設備は Barossa ガス田に到着、海面下インフラストラクチャーと接続された。最終コミッショニング活動が進行中である。Darwin LNG 延命含む全作業が、引き続き 2025 年第 3 四半期ガス生産開始に向け予定通り進行している。ガス搬出パイプライン、Darwin LNG へのパイプライン複線化は完了、試験、接続され Barossa ガス受入準備が整っている。

豪 Santos 社は、2025 年 7 月 4 日、QatarEnergy Trading 社 (QET) と、年間 50 万トンの LNG を 2026 年から 2 年間、Santos ポートフォリオより DES (持ち届け ex-ship) 条件で供給する中期 LNG 供給契約の締結を発表した。

[北米]

Baker Hughes 社、Chart Industries 社は、2025 年 7 月 29 日、Baker Hughes 側が

Chart 発行済み全株式を買い取る契約を締結したことを発表した。

DOE(米エネルギー省) は、2025 年 6 月 30 日、重要エネルギーインフラストラクチャー整備促進のため承認手続きを改善すべく、NEPA (国家環境政策法) 手続きの改正を発表した。

米石油協会 API、Center for LNG (CLNG) は、2025 年 7 月 7 日、連邦通商代表部 (USTR) による、中国の海洋・ロジスティックス・造船部門の優越的地位に関する第 301 条調査に基づく措置の案に関する通知に対してコメントを発表した。このコメントによると、2025 年 4 月 17 日付 USTR 措置は、米国の石油・天然ガス産業、特に LNG 輸出、原油・石油製品の輸出入に対して悪影響があるリスクがあるとしている。

韓国ハンファオーシャン Hanwha Ocean (한화오션) 米子会社 Hanwha Shipping (한화해운) は、2025 年 7 月 23 日、自社関係会社 Hanwha Philly Shipyard に LNG 輸送船舶 1 隻を発注したことを発表した。同船舶は、50 年近く振りの、米国で発注される輸出市場向けの LNG 輸送船舶となる。2024 年 12 月、Hanwha は Philly Shipyard を買収した。

Corpus Christi Liquefaction Stage IV 社、Corpus Christi Liquefaction 社、Cheniere Corpus Christi Pipeline 社は、2025 年 7 月 17 日、テキサス州サンパトリシオ・ニューエス郡の既存 Corpus Christi LNG 設備拡張計画、同サンパトリシオ郡内での随伴州際天然ガスパイプラインの拡張計画について、国家環境政策法 (NEPA) 上のプレファイリング事前審査手続きを開始することを FERC (連邦エネルギー規制委員会) に申請した。計画している CCL 設備拡張は、追加 4 件の大型液化設備系列、フルコンテインメント LNG 貯蔵タンク 2 基、海洋栈橋 1 本、その他インフラストラクチャーで構成される (合わせて "CCL Stage 4 Project" と称する)。パイプラインの拡張計画は、26 マイル (42 km) 長・42 インチ径州際天然ガスパイプライン複線化 (部分的には CCPL 既存 48 インチ径パイプラインと並走)、追加圧送・接続設備 ("Corpus Christi Pipeline Expansion Project") となる。建設開始を 2027 年第 3 四半期に計画している。

FERC(連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 7 月 17 日、Freeport LNG Development 社に対して、第 4 系列プロジェクトについて、建設完了・運転開始までの期限を 2031 年 12 月 1 日まで追加延長する同社の 2025 年 6 月 18 日付申請を承認する書簡を発行した。

DOE/FECM (米エネルギー省化石エネルギー・カーボンマネジメント局) は、2025 年 7 月 2 日、Golden Pass LNG Terminal 社 (GPLNG) が、米国に外国供給源より輸入した LNG を、2025 年 10 月 1 日から 2 年間、最大 50 bcf(100 万トン相当) 輸出する包括許可を求める 6 月 26 日付申請の受理を通知した。GPLNG は、テキサス州サビンパスで建設中の GPLNG 設備より、海上輸送船舶で LNG を輸入する容量を持ち米国法・政策で通商が禁じられていない諸国への LNG 輸出承認を申請している。輸出を提案されている LNG は GPLNG による LNG 輸入活動により生じ、GPLNG 基地の LNG 貯蔵タンクに留まっているものとなる。この LNG は、再輸出されるか、気化され同設備の燃料ガスとして使われる。GPLNG はさらにこの輸入された LNG を、輸出設備のスタートアップに使う計画である。

米国・グローバル市場の価格シグナル次第で、この LNG は、国内天然ガス市場で消費されるように気化される可能性もある。

Venture Global 社は、2025 年 7 月 3 日、Venture Global Plaquemines LNG 社 (VGPL) が総額 40 億米ドルのシニア担保付債券の募集を完了したと発表した。この債券は 2 回に分けて発行された。Venture Global 社は既に 2025 年 4 月 21 日に VGPL による 25 億米ドルのシニア担保付債券の発行を発表しており、これにより VGPL が 2024 年 12 月に LNG 生産を開始して以来発行したシニア担保付債券の総額は 65 億米ドルとなる。

FERC (連邦エネルギー規制委員会) に 2025 年 7 月 14 日付提出された書簡によると、Plaquemines Expansion 社、Venture Global Plaquemines LNG 社は Plaquemines 拡張プロジェクト設計を進めており、承認を求める液化ブロック数を 12 から 16 に増加した。その結果、プロジェクトの計画生産容量は、年間 1860 万トンから 2480 万トンに増加している。

Venture Global Plaquemines LNG 社は、2025 年 7 月 21 日、DOE (米エネルギー省) に、2025 年 6 月 24 日に Plaquemines LNG が Tenaska Marketing Ventures 社との間で、Plaquemines LNG が Tenaska から長期の条件で天然ガスを購入する既に締結した基本契約に基づき、取引確認を締結したことを報告する書簡を提出した。

Venture Global 社は、2025 年 7 月 3 日、PETRONAS LNG 社との新規 20 年間 SPA (売買契約) 締結を発表した。PETRONAS は、年間 100 万トンの LNG を、CP2 LNG から 20 年間購入することとなる。本件は Venture Global の PETRONAS との、年間 100 万トンの LNG 供給を Plaquemines LNG から受ける既存契約に上乗せとなる。

Venture Global 社、Securing Energy for Europe 社 (SEFE) は、2025 年 7 月 9 日、SEFE 子会社 SEFE Energy 社が、Venture Global 第 3 のプロジェクト CP2 LNG より 20 年間、追加年間 75 万トンの LNG を購入する契約を最終的に固めたことを発表した。今回の発表は、2023 年締結された既存 SPA (売買契約) を修正し、SEFE が CP2 LNG から購入する LNG 総量を年間 300 万トンに増加する。

Venture Global 社、イタリア Eni 社は、2025 年 7 月 16 日、前者 3 件目のプロジェクト CP2 LNG から 20 年間、年間 200 万トンの LNG についての新規 SPA (売買契約) 締結を発表した。Eni 初の米国 LNG 生産者との長期契約である。今日までに CP2 フェーズワンの年間 1350 万トンが売れ、Venture Global 全プロジェクトの契約済み容量は年間 4350 万トンに増加した。

Venture Global 社は、2025 年 7 月 28 日、Venture Global CP2 LNG プロジェクト第 1 段階、随伴 CP Express パイプラインについて、FID (最終投資決定) および 151 億米ドルのプロジェクトファイナンス締結を発表した。単独 1 回ベースでは史上最大級のプロジェクトファイナンスで、Venture Global の Plaquemines LNG 向けファイナンス合計に次ぐ 2 位の規模である。CP2 プロジェクトは 2027 年に LNG 出荷開始見込み。融資機関は Bank of America, Barclays, Bayern LB, BBVA, CIBC, Deutsche Bank, FirstBank, Flagstar, Goldman Sachs, Helaba, ICBC, ING, Intesa, J.P. Morgan, LBBW, Mizuho, MUFG,

Natixis, NBC, Nord LB, Raymond James, RBC, Regions, Santander, Scotiabank, SMBC, Standard Chartered, Truist, Wells Fargo である。DOE/FECM (米エネルギー省) は、2025 年 3 月 19 日、CP2 に非 FTA 諸国 (米国との自由貿易協定を持たない諸国) 向け LNG 輸出長期の条件付き承認の指令を発した。その際 DOE/FECM は、2024 年 LNG 輸出スタディの完了により DOE 決定が 2024 年スタディ・パブリックコメントの便益を受けることの重要性を指摘した。さらに 3 月 19 日付指令によれば、DOE は最終指令発行に先立ち、NEPA に従わなくてはならない。FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 5 月 23 日、FERC の CP2 「承認指令は全面的に有効なままであり、建設承認をこれ以上留保する必要がない」と述べた。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 7 月 23 日、同年第 2 四半期業績報告の中で、Louisiana LNG プロジェクト第 1 系列は同四半期末時点で 22%完了した、と述べた。

Delfin Midstream 社は、2025 年 7 月 2 日、Siemens Energy 社と SGT-750 ガスタービンメカニカルドライブパッケージ 4 件の製造能力予約の契約締結を発表した。Delfin はまた、サムスン重工 (SHI) ・ Black & Veatch Inc. (B&V) との間で、一括請負エンジニアリング・調達・建設・統合化 (EPCI) 契約の基礎として FLNG 船舶仕様詳細深化、プロジェクト実施準備に向け、早期作業プログラムに合意したことを発表した。Delfin の作業は、2025 年 FID (最終投資決定) に向けた足固めである。

Gulfstream LNG Development 社は、2025 年 7 月 7 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) に LNG 輸出プロジェクト建設への公式な許可申請を提出した。同プロジェクトは、米国内で生産された天然ガスを、地元、地域、国際市場向け LNG に転換する計画で、米国湾岸に年間 400 万トンの生産容量で計画している。ルイジアナ州プラクミンズ郡 Belle Chasse 町南に立地し建設される。この未開発用地は、Gulfstream LNG が Magnolia Terminal 社から賃借し、ミシシッピ河西側の水深深い河川に面する。同プロジェクトには国内買主向けのトラック積み込み用設備も含まれる。海洋設備には 2 栈橋ができることとなる。小さい方の栈橋は、小規模 LNG 船舶・バージ (30,000 - 40,000 m³) 用、大きい方は公海航行用 145,000 - 185,000 m³ カーゴ容量の LNG 輸送船舶用となる。Gulfstream LNG Development 社は、2025 年 7 月 22 日、FERC が建設への申請提出を承認したことを発表した。

Argent LNG 社は、2025 年 7 月 7 日、自社旗艦となる LNG 輸出プロジェクトを、9 月 9 - 12 日イタリアのミラノで開催される Gastech 2025 にて公式お披露目する、と発表した。最大年間 2500 万トンの LNG を供給するべく設計される Argent LNG プロジェクトは、Baker Hughes、UOP (Honeywell)、ABB、GTT の技術力・遂行力を統合するとしている。

MARAD (米運輸省海事局) ・USCG (米連邦沿岸警備隊) は、2025 年 7 月 7 日、ST LNG 社による水深深港湾ライセンス申請を受領したことを発表した。ST LNG 水深深港湾設備は、テキサス州マタゴダ沖 10.4 海里 (19.2 km) に設置予定である。同プロジェクトは年間 210 万トン液化システム 4 件を Brazos 外郭大陸棚第 476 リース鉱区 (BA-476) 水

深 65-72 フィート (20-22 m) の位置に設置する。ST LNG 深水深港湾は固定据え付け・浮体要素で構成される。プロジェクトは 4 段階で開発される。第 1 段階建設は、大型プラットフォーム 3 件 (ガス処理プラットフォーム、LNG 液化プラットフォーム、居住区・ユーティリティプラットフォーム)、LNG 移送プラットフォーム 1 件、繫留ドルフィン 9 基、FSU (浮体貯蔵設備) 1 基、接続支線パイプラインが含まれる。同プロジェクト向け原料ガス供給は、Tres Palacios 天然ガス貯蔵・トレーディングハブ、Williams Markham ガス処理設備から発することとなる。

United Energy LNG 社、Power LNG 社は、2025 年 7 月 7 日、北米での工業用、発電用、輸送用の市場に供する小規模 LNG プラットフォームを創設する戦略的合併締結を発表した。統合後の United Energy LNG (UE LNG) は、開発進行中の 3 件の LNG 生産設備を監督することとなる。UE LNG はテキサス州ヒューストンの 1 件について初期計画・設計第 1 段階 (FEL-1) 開始、立地点未詳のもう 1 件選定も進行中としている。カンザス州インディペンデンスのもう 1 件は、7 月に FEL-1 開始予定としている。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 7 月 23 日、同年第 2 四半期業績報告の中で、オクラホマ州 H2OK プロジェクトに関して、コスト上昇・予測を下回る水素需要等、現在低炭素水素産業が直面する諸課題により撤退を決断した、と述べた。

米ホワイトハウスは、2025 年 7 月 23 日、「米日戦略的通商・投資協定」に関する「ファクトシート」を公表した。「日本は米国の指示により、米国のコア産業再建・拡張のため 5500 億米ドルを投資する」「エネルギーインフラストラクチャー・生産、これには LNG、先進型燃料、送電網近代化を含む」としている。「本協定は主要諸部門の画期的な開放をもたらす」「エネルギーに関して、日本向け米国エネルギー輸出を大幅に増加する。米国・日本はアラスカ産液化天然ガス (LNG) 新規引き取り契約を検討する」としている。

日揮ホールディングス株式会社・米 Fluor Corporation は、2025 年 7 月 1 日、日揮グローバル株式会社・Fluor Corporation が遂行しているカナダの LNG Canada プロジェクトにて、6 月 30 日 (現地時間) に LNG カーゴ初出荷が達成された旨を発表した。カナダ西海岸同プロジェクトは、年間 1400 万トンの LNG 生産容量を有する。日揮グローバル・Fluor のジョイントベンチャー JGC Fluor は、モジュール製作工法を採用した。2022 年 1 月から 2023 年 7 月にかけて、建設現場には 215 個以上のモジュールを納入・設置した。その中でも最大のモジュールは、幅約 45 m、奥行き約 75 m、高さ約 47 m の大きさを有した。また建設工事現場では、高さ 56 m、直径 75 m、容積 225,000 m³を超える、世界で 2 番目に大きな LNG 貯蔵タンクの建設工事も実施した。

マレーシア PETRONAS は、2025 年 7 月 7 日、カナダのブリティッシュコロンビア州キティマット LNG Canada 設備から自社最初の LNG カーゴが 174,000 m³ Puteri Sejinjang LNG 輸送船積載にて日本向け出港したことを発表した。今回発表によると、同設備は GHG 原単位で世界既存最優良級 LNG 設備より 35%、世界平均より 60%低く操業するとのこと。PETRONAS は North Montney LNG 社を通じて同プロジェクトの 25%出資している。

NFE (New Fortress Energy) は、2025 年 7 月 12 日、プエルトリコ電力公社 PREPA に、未払い金額が支払われない限り、FSPA (燃料売買契約) に基づく LNG 気化ガスの引き渡しを止めることを連絡する書簡を送った。

LNG Alliance 社は、2025 年 7 月 11 日、メキシコのソノラ州グアイマスの容量年間 780 万トンの Amigo LNG 輸出プロジェクト向けに Chart Industries 社 IPSMR® (統合型予冷単一混合冷媒方式) プロセス技術を選定する決定を発表した。

【中東】

UAE (アラブ首長国連邦) アブダビ ADNOC Gas 社は、2025 年 7 月 10 日、ドイツ SEFE Securing Energy for Europe 社と、2025 年開始で LNG 70 万トンを引き渡す 3 年間の LNG 供給契約を締結したことを発表した。LNG は、ADNOC Gas 社 Das Island 液化設備から供給される。

カタール海運 Nakilat 社は、2025 年 7 月 25 日、韓国輸出入銀行 (KEXIM) と、Nakilat 所有・運航となる 25 隻の在来型韓国建造の LNG 輸送船向けの第 1 弾のファイナンスパッケージに合意した旨、発表した。

【アフリカ】

New Fortress Energy 社 (NFE) は、2025 年 7 月 16 日、自社子会社が 138,250 m³ FSRU (浮体貯蔵・気化設備) *Energos Winter* 配備に関して、エジプト Egyptian Natural Gas Holding Company (EGAS) との間で 5 年契約を締結したことを発表した。同設備は同国ダミエッタで EGAS の LNG 輸入基地として操業することとなる。NFE として同国 *Energos Eskimo* に続く 2 件目の FSRU として早ければ 2025 年 8 月に配備されることとなる。

アンゴラの石油類・ガス・バイオ燃料機関 (ANPG)、Azule Energy (35%) が Equinor (30%)、Sonangol E&P (25%)、Acrep S.A. (10%) と組んで操業している第 1/14 鉱区のコントラクターグループは、2025 年 7 月 11 日、アンゴラ共和国の Lower Congo 海盆 Gajajeira-01 探査井にてガス資源を発見したことを発表した。初期的評価において、ガス資源量 1 tcf 超、随伴コンデンセート最大 1 億バレルと推計される。

シンガポール Seatrium 社は、2025 年 7 月 3 日、Karpowership 子会社 Kinetics からの FSRU (浮体貯蔵・気化設備) 改造契約受注を発表した。本件受注は、2024 年 4 月発表された LNG 輸送船舶 3 隻の FSRUs 改造・4 隻目オプション付契約の、4 隻目オプションの Kinetics による行使確認による。2025 年第 3 四半期作業開始予定で、LNG 輸送船舶を FSRU・名称 LNGT Turkiye に改造する。

韓国サムスン重工 (SHI) は、2025 年 7 月 7 日、アフリカの洋上生産設備建造の 8694 億韓国ウォン (6.37 億米ドル) の取引を受注したことを発表した。アフリカで操業する欧州の海運企業より、モザンビークの FLNG (浮体 LNG 生産) 設備を建造する初期契約を締結した、と述べた。

Technip Energies 社は、2025 年 7 月 11 日、アフリカでの FLNG (浮体 LNG 生産) 設備 1 件について準備作業を行う契約を受注したことを発表した。同契約は 9 月 30 日まで有効となる。

Eni 社 2025 年 Q2 業績に関する 7 月 25 日の説明会によると、モザンビーク Coral Norte FLNG は同国政府の全面承認を確保しており、推進・FID (最終投資決定) へのプロセスにある。予定通りの推進確保のため、要長期間の資機材、組み立てヤード、重要項目は既に確保しているという。Eni は Coral South にて 25%参加権を有しているが、Coral Norte に関しては 50%有しており、これは他参加企業の 1 社と、陸上、洋上プロジェクトに関しても地分をスワップしたものであるとのこと。

TotalEnergies 社の、2025 年 7 月 24 日、同年第 2 四半期業績報告会によると、同社は「モザンビーク政府、投資家間の強力な連携確保に向け周旋している」と述べた。

タンザニア Tanzania Petroleum Development Corporation (TPDC) は、2025 年 7 月 3 日、MOU (覚書) を Energetech Tantel との間で締結した。この MOU は、事業化調査、承認手続き、エンジニアリング、資金調達、LNG 生産に至る 2 年間のロードマップを示す。LNG 生産開始目標は 12 ヶ月以内としている。これにはモジュラー型 LNG 生産設備の建設、最終配給のための超低温コンテナ製作が含まれている。当初の生産規模は、年間 15 - 23 万トン、その後 75 万トン超への拡張可能性を織り込んでいる。

[欧州・周辺地域]

欧州連合理事会は、2025 年 7 月 18 日、ガス貯蔵規制について、冬季前に十分なガス在庫を維持する加盟諸国義務を 2 年間延長する改正を採択した。既存の拘束力ある 90%目標は維持されるが、到達時期を 10 月 1 日から 12 月 1 日のいずれかの時点とする柔軟性を織り込む。貯蔵充填困難な状況の場合に備え 10%柔軟性を導入する。さらに実施細則により、欧州委員会は充填目標柔軟性をさらに最大追加 5%拡大することができる。

TotalEnergies 社は、2025 年 7 月 23 日、CMA CGM 社と、オランダのロッテルダム港で LNG バンカー燃料供給のソリューション実施・操業専用の 50/50 ロジスティックス合弁事業開発に向けた協定を締結したことを発表した。事業の一環として新規 20,000 m³ LNG バンカー燃料船舶を 2028 年末までにロッテルダムに配備する。本件 CMA CGM-TotalEnergies JV は、Gate 基地設備の再積み込みアクセスから、ARA (アムステルダム・ロッテルダム・アントワープ) 地域で運航する広範囲の船舶に対する LNG バンカー供給まで、全範囲のロジスティックスサービスを提供する。同合弁事業は、2020 年以降 18,600 m³ LNG バンカー船舶 Gas Agility が運航している ARA 地域での TotalEnergies のロジスティックスインフラストラクチャーを活用する。2050 年までにネットゼロカーボンを達成するという CMA CGM 目標を支え、2029 年までに 123 隻に拡大する同社のデュアルフューエル LNG 動力船団への供給を確保すべく、TotalEnergies は CMA CGM 向けに、2028 年から 2040 年まで、最大年間 360,000 トンの LNG を供給する。

Sacyr Proyecta は、2025 年 7 月 14 日、Fluxys が Sacyr Proyecta に対して、ベルギー Zeebrugge LNG 基地の FEED(基本設計) 新契約を発注したことを発表した。範囲としては新規海水オープンラック気化器 (ORV) ・対応するポンプ、港湾設備での新たな引き込み設備の設置を含む。このプロジェクトは、基地送出容量を維持しつつ CO₂ 排出を削減することを目指し、Fluxys による自社操業からのネットゼロ排出達成を目指すプログラムの一環である。

ベルギー Victrol は、2025 年 7 月 11 日、欧州のパイオニア的内陸 LNG バンカー船舶の 1 隻、LNG London が、過去数年間にロッテルダムからアントワープ間で 1,000 件を超える LNG バンカリングを実施したと述べた。Shell が備船、LNG Shipping が所有、Victrol が運航する同船は、2019 年 6 月、貯蔵容量 3,000 m³ にて就航した。

ドイツ Deutsche Energy Terminal 社 (DET) は、2025 年 7 月 2 日、6 月 23 日から 7 月 1 日に実施したマーケティング手続きにより Wilhelmshaven 1 ・ 2 基地の気化スロット全部を売り切ったことを発表した。Wilhelmshaven 1 基地 2026 年分、Wilhelmshaven 2 基地 2025 ・ 2026 年分をデジタルプラットフォーム Prisma により販売した。今回 23 社が、2025 年分 (Wilhelmshaven 2) 、2026 年分 (Wilhelmshaven 1 & 2) 短期容量を確保した。オファーされた全 77 スロットが売り切れた。Wilhelmshaven 1 基地 2026 年分平均価格は、引き渡し義務付き €0.25/百万 BTU、引き渡し義務なし €0.40 となった。Wilhelmshaven 2 基地 2025 年分平均価格は同 €0.29、€0.36、2026 年分はいずれも €0.22 となった。

スイスに本拠を置く BGN 社は、2025 年 6 月 22 日、ドイツ Mukran FSRU 設備向けに自社初の実物 LNG カーゴ荷揚げを発表した。

スペイン Endesa 社 2025 年上半期業績報告によると、同年 1 月、ある LNG 生産企業が Endesa Generación 社を相手取り、長期 LNG 供給契約の価格見直しに関する仲裁手続きを開始した。当該 LNG 生産企業は価格調整を要請しており、この会社が 6 月に提出した請求書面によると、同月 30 日までの利息分を含み Endesa 側の 2.40 億米ドル支払いにつながる可能性がある。この仲裁は 2026 年最終四半期までに決着する見込みはない。

Saipem、Subsea7 両社は、2025 年 7 月 24 日、同年 2 月 23 日 MOU(覚書) 締結の際に明らかにされたものに沿った諸条件で拘束力ある合併契約を締結したことを発表した。この発表によると、両社合併でエネルギー部門サービスの世界筆頭企業となる。統合後の企業は Saipem7 と改称する。

ポーランド ORLEN 社の、2025 年 7 月 2 日の発表によると、今後 2 ヶ月間、ウクライナ Naftogaz 社との新契約で 0.14 bcm の天然ガスを供給する。米国から調達し Świnoujście 基地で気化し、ウクライナに輸送する。本件は ORLEN ・ Naftogaz 間で 2025 年 4 件目のガス供給契約となる。過去 3 件の契約での合計数量は 0.3 bcm となった。いずれの場合もガスは ORLEN が米国から Świnoujście 基地またはリトアニア Klaipėda 基地で輸入した LNG を気化した。

欧州委員会 (EC) は、2025 年 7 月 18 日、対ロシア第 18 次制裁パッケージ発表の中で、「本パッケージは Nord Stream 1・2 に関わる取引禁止を加えている。両パイプラインでの天然ガス供給再開あるいは開始を防ぐためである。EU 企業は Nord Stream 1・2 パイプラインに関わる取引に関われないことを意味する。両パイプライン、あるいはその一部の仕上げ、操業、メンテナンス、利用に関わる取引を含む。この取引禁止は、これらパイプラインで輸送される天然ガスの購入も含む」と述べた。

欧州委員会 (EC) は、2025 年 7 月 18 日、対ロシア第 18 次制裁パッケージ発表の中で、3 隻の LNG 輸送タンカーが「当初就航した目的であったロシア Yamal、Arctic 2 プロジェクトからのエネルギー輸送に最早従事しない確約に基づき制裁リストから外された」「この措置は、EU 制裁船舶指定のインパクト、および確約があれば就航に復帰できることを示している」と述べた。該当する船舶は、2025 年 5 月 20 にリストに加えられた North Moon, North Ocean, North Light である。

[南米]

Eni 社 2025 年 Q2 業績に関する 7 月 25 日の説明会によると、アルゼンチン YPF 社との Argentina LNG に関する計画は、2026 年 Q1 までに FID (最終投資決定) を行う、としている。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp